

【日 時】 令和7年3月10日（月）13時30分～15時00分

【場 所】 可児市役所 4階第1会議室

【出席者】 （委員）12人（50音順・敬称略）

会長 葉袋淳子、副会長 前田伸寿、大池かおり、片桐妙子、坂江レアンドロユウキ、
祖父江義美、増尾佳代子、三好英隆、村上克、山口貴史、山田牧子、吉田裕子

（事務局）5人

部長 飯田好晴、課長 田島純平、人権・国際係長 木村彰伯、
人権・国際係主任 照山彩乃、人権・国際係主事 梅村萌

【次第】

1. 開会

2. 議事

第1号 男女共同参画意識啓発副読本の改訂について

○事務局 資料1に基づいて説明

・改訂期間を3年から4年に変更することについてはいかがか。⇒承諾

主な意見等

○委員 ただ生徒に配布するだけでなく、目を通してもらえるような仕組みづくりなどの工夫があると良い。

○委員 学校の授業で活用するならば、カリキュラムに位置づけられていないと取り上げることは難しい。時間的に位置づけられていないので、各学校に応じての対応になったと思う。

○委員 学校のカリキュラムに入れ込むことは可能か。

○委員 難しいと思う。もしカリキュラムに入れるとしても、副読本のみではなく、教える立場である教師用のマニュアルのようなものが付随してあると良い。

○会長 内容的に非常に充実しているので、活用方法については、具体的な提案を詰める必要がある。

○事務局 資料2第1章に基づいて説明

・ジェンダーとアンコンシャス・バイアスについて記載

○委員 例として「学級委員やリーダーは男の子が向いている。」「力仕事は男の子」「女の子は掃除が得意」という事柄はいかがか。実際、子どもからそのような事柄があると聞いている。

○委員 現行の副読本 P.3 に「整理整頓や植物の世話は女子が向いている」「力仕事は男子が向いている」と書いてあり、現在も変わっていないことが分かる。

○委員 1章の（2）のタイトルは「知ってる？誰にでもあるアンコンシャス・バイアス（無意識な偏見）」というように、（1）のタイトルと合わせて問いかけるようにしてはどうか。また、世間では“無意識の偏見”という表記が一般的なので、資料中の「無意識な偏見」となっている部分は、「無意識の偏見」に修正及び統一したほうが良い。

「性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験がある」という人が76.3%もいるということをごどこかに記載してはどうか。

- 会 長 ①(2)のタイトルを(1)と合わせた問かけ形式にすること。②アンコンシャス・バイアスの定義を最初に記載すること。③「無意識な偏見」と、ワードを統一すること。以上の3点について修正可能か。また、案が出た事例について、対話形式で記載することは可能か。
- 事務局 可能であり、修正を行う。
- 委 員 「持続可能な開発」の意味を記載したほうが良いのではないか。
- 会 長 「持続可能な開発」というワードについて、どこを切り口に残していくかを検討する必要がある。
- 委 員 学校で授業を行う際、どの時間を活用するか想定はされているか。社会科・公民の中のこういう単元で活用するということで作成されれば、子どもたちの頭の中に入りやすいと思う。しかし、このままのものを学校に持ってこられた際、どの授業でどのように活用することが有効なのかが分かりづらい。
- 会 長 過去に配布した際、学校側から質問等はあったか。
- 事務局 過去2年は特になく、受け取っていただいただけである。
- 会 長 導入の過程での検討が必要であったと思う。過去に公民の授業で使用したという学校に、どのように使用したのかが聞けると良い。
- 委 員 アンコンシャス・バイアスというワードは男女共同参画の問題のみではないと思うので、ワーク1の『「男らしさ」「女らしさ」について』という言葉は削除しても良いのではないか。例えば「アンコンシャス・バイアスについて疑問に思うことをあげてみましょう。」や、「あなたが普段の生活の中で疑問に思うことをあげてみましょう。」というのはいかがか。
- 委 員 アンコンシャス・バイアスというワードを男女共同参画だけの意味だと捉えることは確かに危険だが、この冊子は男女共同参画意識啓発副読本なので、男らしさや女らしさをいう言葉はあっても良いのではないかと思う。
- 委 員 男女共同参画やジェンダーの根本にはアンコンシャス・バイアスがあるので、この冊子で取り上げることは重要だと感じる。生徒にどのように分かりやすく説明するかが大切である。
- 会 長 どのような表現で記載するかを考え直す必要がある。ワークをどこで抑えるかについても併せて検討が必要である。
- 事務局 資料2第2章に基づいて説明
・ジェンダーギャップ指数等統計資料をもとに、ワークライフバランスや家庭内での男女共同参画について考えさせる項目にしたい。
- 会 長 従来通りの形で統計資料を読み解き、自分の意見をワークに記入するという項目にするという方向でよろしいか。
- 委 員 こちらも対話形式等で資料から読み解けるポイントを記載したほうが、考えやすかつ意見を持ちやすくなるのではないか。
- 会 長 表を読み解くのではなく、対話形式を入れ込み、登場人物と一緒に考えられるような構成になると良いという意見だった。この構成にするとワークの部分は必要なくなるが、このことについてはいかがか。
- 委 員 統計結果やその理由までは対話形式で答えを出し、最後に「そうならないためにはどう

したら良いか」という問いかけを導入する方法はいかがか。

○委員 情報が多いこの資料で生徒たちが考えられるかは疑問である。価値を押し付けず、引き出させようとする授業は難しいので、慎重に行う必要がある。

○会長 副読本をどのように活用するかの再検討が必要であるが、授業で扱う場合でも扱わない場合でも必ず家庭には持ち帰る。その際、家庭でも保護者と一緒に話し合うことができるということを考えた際に、様々な含みを持たせて考えていく欄はひとつ設けたいということが良いか。また統計的なグラフも入れ込むということが良いか。

現在の構成は質問のみであるが、対話形式で、統計資料の結果を示し、最後に生徒が考えた意見を記入できるようなスペースを作成するというように、事務局は修正を行うこと。

○委員 統計資料のランキングについて、可児市にはフィリピン、ブラジル、ベトナム国籍の方が多いので、その国のランキングも掲載してはどうか。

○事務局 掲載しているのは国の資料なので、他国が掲載してある同様のものは難しいが、ランキングのみを文字で記載することは可能かと思われるので一度調べておく。また、統計資料は最新のものに更新する。

○事務局 資料2第3章に基づいて説明。

・LGBTQ やアウティングについて記載

○委員 アライやアウティングという言葉は初めて聞いた。言語の説明は大切であるが、既に沢山の用語があるので、マイナーな用語は省いても良いのではないか。

○事務局 アウティングはいじめ等トラブルに関わることであるので、LGBTQ に限らなくても、身近な例を記載して啓発したいと考えている。

○委員 アライという言葉は、当事者には違和感があると言われている。理解者と当事者という壁をつけているように感じている。セクシャリティーはグラデーションである。アライはこういうものだとか決めつけて生徒に話してしまうことに危険を感じる。

○会長 現代社会情勢の中で、中学生が知っておくことが非常に重要であると思われる一方で、ワードが煩雑になってくると理解が低下するという問題もある。どこまで記載させるかの検討が必要である。

○会長 言葉自体を理解させることより、「こういうことは良くない」ということを、中学生という段階で早めに認識させたほうが良いと思う。

○事務局 アライは掲載しないで、第3章（1）LGBTQ とパートナーシップ（2）アウティングの構成に変更し、用語解説のみにならないよう中学生に伝わりやすい内容にしたい。

○事務局 資料2第4章に基づいて説明

・デートDV について記載

○委員 デートDVのチェックリストのようなもので啓発してはどうか。生徒は何がデートDVに当てはまるか分からないと思うので、具体例などを掲載したほうが良いのではないか。

○委員 文章より、漫画のようにイラストなどを入れると見てもらいやすいのではないか。

○会長 ラインの返信が遅い＝束縛など、何がデートDVにあたるのか知ってもらうことが大切である。

○委員 デートDVは、身体的暴力、精神的暴力、携帯を使った暴力、経済的暴力、性的暴力の5

つがある。中学校や高校へデート DV の講座を行っており、その時のアンケートには、「これがデート DV に当てはまることは知らなかった。」「知らない間に相手を傷つけていたかもしれない。」などの意見がある。カップル3つの内1つにはデート DV があると言われていたので、身近な問題である。生徒たちが当事者になるかもしれないので知らないといけないことだと思う。また、法律が変わったことをもとに、性的暴力については、同意があるかないかのフレーズを入れる必要がある。

○会 長 専門家である委員と事務局で内容の調整をお願いしたい。

○会 長 全体の構成について、4章立てで今の内容を掲載する方向性で良いか。

○委 員 中学3年生が、これだけ情報量が多いものを理解できるのか不安に思う。現状維持というものだけに特化するのか、それを超えるのか、もう一つ上がっていくようなステップがあった方が良いのではないかとも思う。

○委 員 副読本に市の特色はなく、男女共同参画の内容がまとめられているだけであり、計画の概要版のようだ。国のフォーマットがあるのか調べて、市で作成する必要があるのかを含めて改めて検討すべきである。

もし、作成する場合でも、現状ではボリュームが多く、活字とグラフだけでは子どもは見てくれないと思うので、イラストを増やすなど、生徒たちが見てくれやすい物を作れるとよい。また、章立てする必要もないのではないか。

冊子でなく、データ化してタブレットで見てもらうことも検討してはどうか。

○会 長 副読本の在り方を考え直す必要があるようだ。

○事務局 授業で使用する想定で作成すべきか、中学生に分かりやすい啓発本として作成するべきか、実状を踏まえて作成の方向性を考えたい。

3. その他 (事務局が今後のスケジュール等について説明)

4. 閉会

15:00 終了